

補聴器装用が認知機能の低下を遅らせる？！ フォナックがサポートした最新研究のご紹介。

世界的に有名な医学雑誌の一つであるランセットの発表によると12の認知症危険因子が挙げられ、それらを改善することで認知症のおよそ40%は理論上予防可能と発表されました。その中でも難聴は認知症の最も大きな危険因子であると指摘されています。ただ補聴器を装用することと認知症リスク低減の因果関係については、判明していませんでした。

今年2023年に、難聴者の補聴器装用と認知機能の深い関係を示す新たな研究結果※が発表されましたのでご紹介いたします。研究の結果、補聴器を装用することで認知症を予防できるとはまだ言えませんが、少なくとも記憶能力などの一部の認知機能の低下を遅らせることができることは訴求できるようになります。ソノヴァ社はこうした質の高い研究をサポートすると共に、今後もエビデンスに基づいた情報提供を続けていきます。

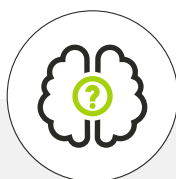
※ これらの研究試験は、フォナックの補聴器を用いて実施されました。

アチーブ

1

ACHIEVE研究

米国における難聴の高齢者の認知機能低下を軽減するための聴覚介入と健康指導



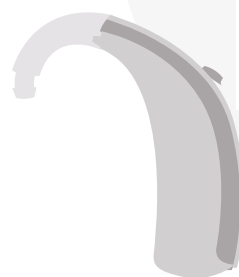
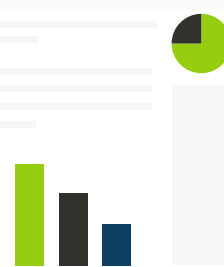
主な研究結果

認知機能低下のリスクが高い高齢者において、補聴器装用などの聴覚介入により思考能力と記憶能力の低下を3年間で

48% 遅らせた



「ランセット誌」
に掲載！



研究参加者

987 名

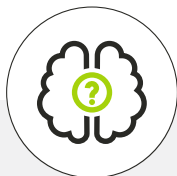


追跡調査期間

3 年間

2 エンハンス ENHANCE研究

オーストラリアにおける難聴の高齢者の認知機能に関する3年間の追跡調査



主な研究結果

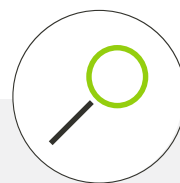
補聴器装用群の認知機能は全体的に安定していたが、
補聴器非装用群では認知機能の低下が見られた。
つまり、補聴器装用による聴覚の介入は、

認知機能の低下を遅らせる可能性がある



研究参加者

160 名



追跡調査期間

3 年間

Sarant, J., et al. (2023). Cognitive Function in Older Adults with Hearing Loss: Outcomes for treated vs untreated groups at 3-year follow-up [Conference presentation]. AAIC 2023 Conference, Amsterdam, Netherlands.



より詳しい資料は
フォナックのホームページから！

<https://www.phonakpro.com/jp/ja/support/other-support/Evidence.html>

本件に関するお問い合わせ先

ソノヴァ・ジャパン株式会社

● マーケティング部 オーディオロジーチーム

〒141-0031 東京都品川区西五反田 5-2-4 レキシントン・プラザ西五反田

lifeison.jp@phonak.com

